

金沢市立新神田小学校

[はじめに]

本校は、昭和56年(1981年)に開校した。全校児童数は336名、教職員は21名である。

金沢市の西南部に位置し、校区は北側を流れる犀川と南側を流れる伏見川に囲まれており、東側には四季折々の医王の山並みを望むことができる。学校周辺には用水が流れ、田畑も見られるが、団地や商店街などが広がっている。犀川には四季を通じて美しい自然があり、地域の人々の憩いの場となっている。児童にとって、自然に親しむとともに様々な学習活動に取り組める環境となっている。

心豊かな児童の育成をめざし、地域の人々とかわり、体験学習を通して環境・福祉・伝統文化を主要テーマとし、生活科や総合的な学習の時間に取り組むと同時に、教科学習においても「わかる・できる・つながる」をテーマに課題解決学習を行って持続発展教育の実践に取り組んでいる。

魅力発見！ わたしたちの「新神田」「犀川」そして、「金沢」

1 ユネスコスクールとしての取組

3年生 ぼくたち、犀川探検隊！ ～ 四季の変化を感じながら ～

地域に流れる犀川周辺の探検や生き物フィールドビンゴをしたり、講師をお招きして水生生物調査をしたり、犀川周辺は自然が豊かなことや水がきれいであることを知った。また、それらの活動を通して、「犀川についてもっと知りたい」という意欲がわき、犀川に関することについてテーマを決め、調べることができた。わかったことを新聞や本にまとめて交流し、これからも犀川を守っていこうとする心情をもつことができた。



4年生 伝統工芸を学ぶ

金沢にはどのような伝統工芸品が、どのように受け継がれてきたかを一人一人が調べた。多くの伝統工芸が大切にされ「金沢の宝」としてのよさに気づき、学んだことをグループでまとめて交流することができた。また、職人の方をお招きして「金沢貼函」作りを体験するなかで、金沢を愛し伝統を受け継ごうとする思いに触れ、さらに伝統工芸への理解を深めることができた。



5年生 いいね！ 郷土の食材 ～加賀野菜の魅力にせまろう

ふるさとの野菜を調べて「加賀野菜」があることを知り、実際に地域の農家の方と一緒に、へた紫ナス、打木赤皮甘栗かぼちゃ、五郎島金時を育てたり調理したりする活動を行った。加賀野菜について調べたり、育てたりする活動を通して、郷土の自然や野菜のよさを改めて認識し、郷土への関心を高めることができた。加賀野菜の魅力をプレゼンテーションにまとめ、異学年への報告会を開き広めることができた。



6年生 発見！金沢の歴史・文化

金沢の歴史や文化を学ぶ活動として、自分たちが訪れてみたい場所をピックアップし、金沢観光ボランティアガイドの「まいどさん」とともに歴史的建造物や文化的施設を見学する活動を行った。この体験や「まいどさん」とのふれあいから、改めて金沢のよさに気づき、そのよさを伝えるための新聞を作成し交流することができた。また、和菓子作りの体験も行った。これらの活動から、歴史や文化を大切にしていく心や、昔から今に受け継がれてきている先人達の技術や思いを受け継いでいくことの大切さを学ぶことができた。



その他、特別活動を通して

(1) 児童会活動（縦割り活動）

- なかよしクリーン（無言：もくもく清掃）
 - なかよしウォークラリー（10月）
 - 新神田っ子あいさつの日（年間） ○「心の日」（年4回）
 - ボランティア活動（7月・・・地域の公園の清掃活動）
 - 「絆活動の日」（6月、1月・・・小中合同あいさつ運動）
 - 地域の方々への「ありがとうの会」（感謝のプレゼント作り）
- 縦割り活動や様々な人とのかかわりを通して、互いに思いやる心や協力してよりよい生活を築こうとする心が育かれた。



(2) 福祉教育・環境教育

- プルタブ、ペットボトルキャップ、ベルマーク、古切手収集活動
 - 毎朝の放送で、児童による節電・節水を呼び掛けるエコキャンペーン活動
- 環境を守り、再利用できる資源を大切にするとともに、困っている人の役に立つことを学び、自分にできることを考え、行動することができた。

2 成果と課題

【成果】

- (1) 持続発展教育の視点から、「児童の学びのつながり」を意識した問題解決型の授業づくりを行ってきたことで、友だちの意見や考えを聴いて、つなげて考えられたという児童の姿がふえてきた。
- (2) 調査・栽培・製作・探検・奉仕などの協動的な体験活動に取り組むことで、身の回りの友だちや多くの地域の人々とのふれあいやつながりの大切さを実感するとともに、「ふるさと新神田・金沢」のよさについても再発見することができ、地域を愛する心情を育むことができた。
- (3) 学習の成果を発信する場として、学習発表会や異学年への発表の機会を活用した。自分たちの学びをわかりやすく伝えるための工夫を学級全体で考えていくことで、学級としてのまとまりが生まれ、学びを伝える喜びや楽しさを感じとることができるようになっていった。それと同時に、発信する力もついてきている。また、参観された地域の方や保護者からのメッセージでがんばりを認めてもらったことが、児童の自信や次の活動への意欲につながった。

【課題】

- (1) 今後は、持続発展教育で重視する能力・態度の中にある「批判的に考える力」を育てるための具体的な手立ての検証を進めたり、「コミュニケーション能力」を高めるための新たな方策を打ち立てたりして、総合的な学習の時間を含めて、さらに授業研究を進めていきたい。
- (2) 来年度は、本校の活動をさらに充実させ、地域や他校との連携や協力を進め、広めていくために指導計画の充実をはかる。